

平成20年度八重山群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	30	30	30
平年並	40	40	40
低い(少ない)	30	30	30

(平成20年11月21日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平均値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	19.8	22.4	17.7	130.9	95.8

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

12月の発生予報および防除上の注意事項

八重山群島

1 さとうきび

(1)メイチュウ類

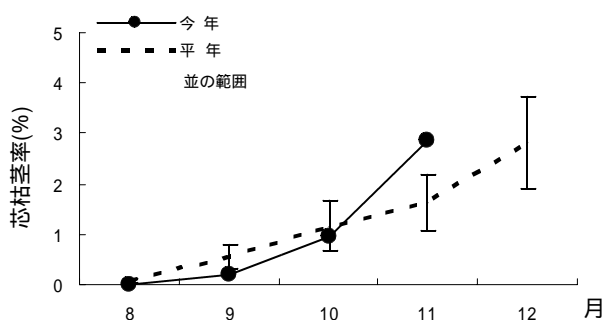
発生程度 : やや多

予報の根拠

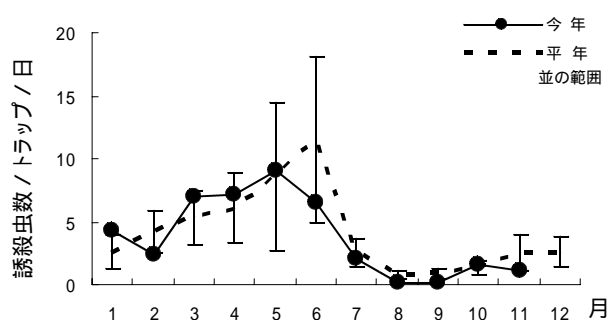
a 11月中・下旬の調査の結果、新植圃場での芯枯茎率は2.9%(前年0.8%、平年1.6%)と平年よりやや高かった。

9月より1月当たりの誘殺虫数から1日当たりの誘殺虫数に変更

b 11月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモンによるトラップ当たりの1日当たり誘殺虫数は1.1頭(前年1.1頭、平年2.5頭)と平年よりやや少なかった。



新植夏植における芯枯茎率の推移



カンシャシンクイハマキの誘殺虫数の推移

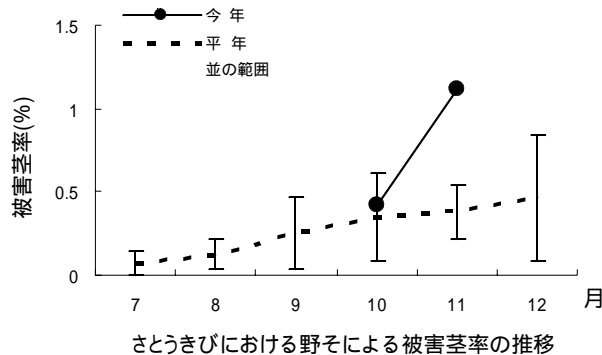
防除上注意すべき事項

- 生育初期の加害による芯枯れ防止をねらい、食入初期の幼虫を対象にした薬剤防除を行う。
- 乳剤等を散布する場合は、葉鞘内部へ薬液が浸るように丁寧に散布する。
- 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。

(2)野そ

発生程度 : やや多
予報の根拠

11月中・下旬の調査の結果、収穫予定圃場での被害茎率は1.1% (前年0.7%、平年0.4%)と平年より高く、被害発生圃場率は54.2% (26/48圃場)であった。



防除上注意すべき事項

- 台風により倒伏被害が発生した圃場や例年食害が多く見られる地域では、薬剤防除を徹底する。
- 地域で一斉に防除することで、より防除効果が高まる。

2 マンゴー

花芽分化期～出蕾期における病害虫の防除対策

- 11月中旬の調査の結果、一部の施設でチャノキイロアザミウマやハダニ類、マンゴーハフクレタマバエによる被害がみられた。
- ハダニ類はビニール被覆後に発生が急増し、ひどい吸汁害では葉をかすり状にし、光沢を失い、黄化落葉する場合もあるので、出蕾前にマシン油等で防除する。
- 現在発生している不要な新梢は、害虫の発生源となるため、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- 今後、炭疽病の発生が多くなるので、罹病した葉や枝は速やかにビニールに入れるなどして施設外に持ち出し処分するとともに、予防防除を行う。

3 かぼちゃ

モザイク病の防除対策

- モザイク病はアブラムシ類により媒介されるため、アブラムシ類の防除を行う。
- アブラムシ類の飛来侵入防止のため、株上にシルバーテープの設置する。
- 発病株は感染源になるので、他の株へ感染させないよう発病株の除去は管理作業の最後に行い、圃場外へ持ち出し処分する。
- アブラムシ類の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。